

平成29年度 臨床実地試験 評価基準

抜歯処置

1. 患者に対する配慮：

① 挨拶・コミュニケーション

判定	評価の基準
十分	挨拶・自己紹介・患者確認ができた
許容範囲内	上記のいずれかができなかった
要再確認	上記すべてができなかった(無言だった)
目的：安心・安全な歯科治療を实践するめ、患者取り違えの防止に努め、当日の担当者であることを知らせる	

② 導入環境の整備

判定	評価の基準
十分	患者動線に干渉しないようにユニットの高さ、テーブル・ライト等の位置を確認した
許容範囲内	一部不十分であったが問題なくユニットに導入できた
要再確認	ユニットに座るまでに患者が立ち止まるか、患者自身が何かを移動させた
目的：患者がユニットに座るまでの動線に関する安全を確保する	

③ 痛みや不快感に対する気遣い

判定	評価の基準
十分	診療中適切な声かけ・確認があり、終始患者の不快感に対する配慮がみられた
許容範囲内	眩しい、痛い等について患者あるいは教員から指摘があったが、その後配慮できた
要再確認	二度以上患者あるいは教員の指摘を受けた
目的：安心・安全な歯科治療を实践するため、患者の不快感軽減に努める	

MEMO：

抜歯処置

2. 器材準備：

① 必要な機材

判定	評価の基準
十分	予定処置に対して必要な材料を予め準備できた
許容範囲内	準備不足がみられたが、そのことに自ら気づいた(突発的なものを除く)
要再確認	不足していた材料に気づかなかった(突発的なものを除く)
目的：必要な材料の準備を行うことにより、処置の流れに関する理解の程度を確認する	

② 必要な器具の準備

判定	評価の基準
十分	予定処置に対して必要な器具を予め準備できた
許容範囲内	準備不足がみられたが、そのことに自ら気づいた(突発的なものを除く)
要再確認	不足していた器具に気づかなかった(突発的なものを除く)
目的：必要な器具の準備を行うことにより、処置の流れに関する理解の程度を確認する	

③ 材料・器具のセッティング

判定	評価の基準
十分	材料・器具をすぐに使用できるように準備できた
許容範囲内	僅かな時間一旦治療を中断して準備することがあった
要再確認	材料・器具の使い方を理解しておらず治療を行う上で支障をきたした
目的：材料・器材を必要時にすぐ使用できるように準備することにより、それらの用途に関する理解を確認する	

MEMO：

抜歯処置

3. 指導教員への報告・確認：

① 治療開始時の報告

判定	評価の基準
十分	治療開始前に患者名、ユニット番号、治療内容などを報告した
許容範囲内	報告が治療開始後になったがそのことに気づいた
要再確認	報告がなかったあるいはそのことに気がつかなかった
目的：歯学系の診療参加型臨床実習の特徴、指導教員による監督の重要性に対する理解を確認する	

② 治療途中の確認依頼

判定	評価の基準
十分	治療の内容に関わらず進行状況について適切に報告があった
許容範囲内	一部報告が遅れたが診療行為ではなかった
要再確認	報告がなく診療を行ったあるいは行いそうになった
目的：歯学系の診療参加型臨床実習の特徴、指導教員による監督の重要性に対する理解を確認する	

③ 治療終了時の報告

判定	評価の基準
十分	報告があり、教員の指示があってから終了した
許容範囲内	終了の報告が遅れたが教員が口腔内を確認できる状態であった
要再確認	報告なく治療を終了し、患者をユニットから降ろした
目的：歯学系の診療参加型臨床実習の特徴、指導教員による監督の重要性に対する理解を確認する	

MEMO：

抜歯処置

4. 器材の取扱と処置の実践:

① 材料を正しく使用している

判定	評価の基準
十分	粉液比や分量、必要な各種の処理手順など使用説明書に記載の通りに使用していた
許容範囲内	一部誤りがあったが臨床的に問題にならない程度であった
要再確認	その場で説明書を確認する等、明らかに予習が不足していた
目的：材料の特徴・性質を理解し、適切に使用方法を理解していることを確認する	

② 器具を正しく使用している

判定	評価の基準
十分	把持方法、使用角度など適切に器具を扱っていた
許容範囲内	一部誤りがあったが危険ではなかった
要再確認	器具の取扱に危険性を感じた
目的：器具の特徴・性質を理解し、適切に使用方法を理解していることを確認する	

③ 必要な処置を行っている

判定	評価の基準
十分	当該歯科疾患に対して必要な処置をすべて実践できた
許容範囲内	一部教員の助けが必要であったが概ね処置を実践できた
要再確認	ほとんど処置を任せることができなかった
目的：高頻度一般治療を行うために必要な基本的技能を備えていることを確認する	

MEMO：

抜歯処置

5. 自験症例に対する理解・自己評価:

① 当該処置の必要性に対する理解

判定	評価の基準
十分	診断名をあげることができ、必要な処置を正しく選択できた（事前ディスカッションを含む）
許容範囲内	治療の流れから当日必要な処置を選択することができた（事前ディスカッションを含む）
要再確認	診断名と処置の関係や治療の流れを理解していなかった
目的：正しく治療を選択できることを確認する	

② できた点・できなかった点の把握

判定	評価の基準
十分	自ら要改善点を把握していた
許容範囲内	改善点を教員に指摘されたがアドバイスに対して理解を示した
要再確認	教員が説明しても理解することができなかった
目的：適切に自己評価を行っていることを確認する	

③ 診療録記載

判定	評価の基準
十分	当日診療録に記載すべき内容（保険点数、所見など）を理解していた
許容範囲内	教員によるアドバイスによって診療録に記載する内容を答えることができた
要再確認	診療録に記載すべき内容について答えることができなかった
目的：保険診療の流れを理解していることを確認する	

MEMO：

抜歯処置

6. 医療安全に対する配慮:

① 衛生的手洗い

判定	評価の基準
十分	診療前後、必要時に確実に手指衛生を行った
許容範囲内	一部不足した場面があったが臨床的に問題ないと思われる程度だった
要再確認	診療前後に手洗い、手指衛生を行わなかった
目的：医療安全・感染対策の基本を身につけていることを確認する	

② スタンダードプリコーション

判定	評価の基準
十分	清潔・不潔、滅菌・非滅菌域の区別ができており、必要に応じて PPE 等を使用した
許容範囲内	一部理解が足りなかったが臨床的に問題のない範囲であり、教員の指摘により気づいた
要再確認	清潔・不潔の区別がつかず、PPE を必要とする診療内容を理解していなかった
目的：医療安全・感染対策の基本を身につけていることを確認する	

③ 医療廃棄物(血液付着物、鋭利物含)の処理

判定	評価の基準
十分	医療廃棄物と一般ゴミの区別、処理の仕方等を理解していた
許容範囲内	一部理解が足りなかったが臨床的に問題のない範囲であり、教員の指摘により気づいた
要再確認	医療廃棄物の処理を理解していなかった
目的：医療安全・感染対策の基本を身につけていることを確認する	

MEMO：